

夢を叶えた夏 夢をつなぐ夏

第108回全国高等学校野球選手権大会出場
拓殖大学紅陵高等学校 硬式野球部

野球を始めたきっかけ

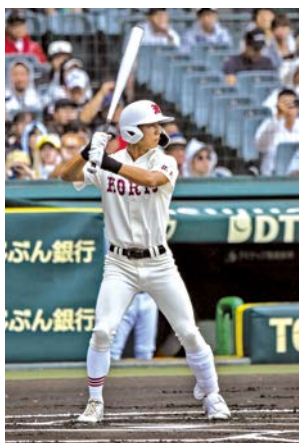
(片岡さん) 兄2人の野球のプレー姿を見てかっこいいなと思ったのがきっかけです。小学1年生から野球中心の生活で、甲子園出場を目標に、東金東クラブで練習をしてきました。自分を支えてくれた方々からの勧めもあり、拓大紅陵なら甲子園出場のチャンスがあると思い、進学を決意。野球は、自分の人格を形成してくれた大切なものであり、これからも大切にしたいです。

(関根さん) 野球をプレーしていた兄の練習をいつも近くで見ていたのがきっかけで、小学校に入学してすぐに東金東クラブに入りました。父が拓大紅陵出身で甲子園に出場していたこともあり、同じユニフォームを着て甲子園の舞台に立ちたいという思いがありました。野球は、自分を成長させてくれたものであると同時に、仲間の大切さを教えてくれた大切なものです。

甲子園出場をつかみ取った時の気持ち

(片岡さん) 夢が実現し、本当に嬉しかったです。地元の方から「1番センターの子だね」「頑張ってるね」と声をかけていただくことがあり、自分のことを知ってくれている驚きや、甲子園に出場することの影響力の大きさを実感しています。いただいた応援の中でも「これまで野球を頑張ってきたご褒美だから楽しんでこい」という言葉が特に印象に残っています。

(関根さん) 自分の力で甲子園出場をつかみ取ったというよりも、頼れる3年生の先輩方に甲子園に連れて行ってもらったという気持ちが強いです。まだあと1年あるので、今度は自分たちが後輩たちを甲子園に連れていきたいです。また、応援の声をかけてくれる方がたくさんいて、いろいろな人の支えがあってここまで来れたんだなと改めて実感しています。



▲甲子園球場に立つ
片岡さん



▲千葉大会で逆転満塁
ホームランを放つ関根さん



かたおか だいご
片岡 大瑚 さん
(3年生・東金中出身)

せきね ゆうが
関根 悠雅 さん
(2年生・東中出身)

それぞれの晴れ舞台

(片岡さん) 「本当に甲子園の舞台に立ったんだ」と信じられない気持ちでした。普段試合をする球場とは雰囲気の違い、緊張しましたが、スタンドから聞こえる「チャンス紅陵」が緊張をほぐし、自分を強くしてくれました。

(関根さん) ずっとテレビで見えてきた憧れの場所に立てていることに感動しました。初戦1対0で迎えた9回裏二死、ピンチの場面で自分が守るショートに打球が飛んできたときは、正直よく覚えていませんが、とにかく丁寧に打球を捕ることに集中しました。



夢を追いかけて野球に取り組んでいる東金市の子どもたちへ

(片岡さん) たとえ一人一人の力が小さくなくても、仲間と協力して諦めずに努力することが大切だと思います。そうして積み上げた思いや努力は無駄にはならず、野球の神様もきっと見てくれていると思います。

(関根さん) 野球ができてることが当たり前ではないということを小さい頃から知ってほしいです。日々、野球に打ち込めるのは、支えてくれる両親や仲間、たくさんの方々のおかげです。思うようにいかない時、苦しい時こそ、野球に向き合える環境、そして支えてくれる方々の存在に感謝することが大切だと思います。

広報とうがねをご覧になるには

広報とうがねは、新聞折込で毎月1日に各世帯へ配布し、市内の公共施設や郵便局、コンビニなどにも配架しています。市ホームページ、LINE、スマホアプリ「マチイロ」でもご覧になれます。希望者(市内)へは郵送も行っていますので、電話や窓口、市ホームページなどでお申し込みください。



市ホームページ
広報とうがね



LINE
公式アカウント



スマホアプリ
マチイロ

